ワッティー、仙台に工場

ガス配管ユニット量産　来年3月稼働

ワッティー（東京都品川区、菅波希衣子社長、03・3779・1001）は、仙台市宮城野区に半導体製造装置メーカー向けガス配管ユニットの量産工場を新設し、2018年3月に稼働する。同社としては初めての東北拠点となる。半導体需要の高まりに対応する。生産拠点と営業拠点を兼ね備え、設備投資額は約6億円程度。生産能力は現行と比べ約2倍に向上する。ガス配管ユニットの売り上げは19年に5億―6億円を目指す。

新工場「仙台事業所」は敷地面積約1980平方㍍、建屋面積約990平方㍍の1階建て。最大約495平方㍍のクリーンルーム、人工知能（AI）やIoT（モノのインターネット）といった技術進歩が相次ぎ、半導体の需要は増加している。

生産に対応するため新工場を建設する。多品種小ロット初、相模原事業所の熱システム事業部から人員を数人配属し、現地採用も含めて6人体制で稼働させていく。

ガス配管ユニットを生産する新工場

顧客の需要に対応

ガス配管ユニットを生産する新工場を仙台に建設する。その状況から、国内の顧客の需要に対応するため新工場を建設する。多品種小ロット生産に対応する。稼働当初、相模原事業所の熱システム事業部から人員を数人配属し、現地採用も含めて6人体制で稼働させていく。

ガス配管ユニットを生産する新工場を仙台に建設する。その状況から、国内の顧客の需要に対応するため新工場を建設する。多品種小ロット生産に対応する。稼働当初、相模原事業所の熱システム事業部から人員を数人配属し、現地採用も含めて6人体制で稼働させていく。同社としては初めての東北拠点となる。半導体需要の高まりに対応する。生産拠点と営業拠点を兼ね備え、設備投資額は約6億円程度。生産能力は現行と比べ約2倍に向上する。ガス配管ユニットの売り上げは19年に5億―6億円を目指す。

新工場「仙台事業所」は敷地面積約1980平方㍍、建屋面積約990平方㍍の1階建て。最大約495平方㍍のクリーンルーム、溶接機10台、洗浄機、ベンダーを備える。現在、相模原事業所にあるヒーター製造も一部を同工場に移管する予定。人工知能（AI）やIoT（モノのインターネット）といった技術進歩が相次ぎ、半導体の需要は増加している